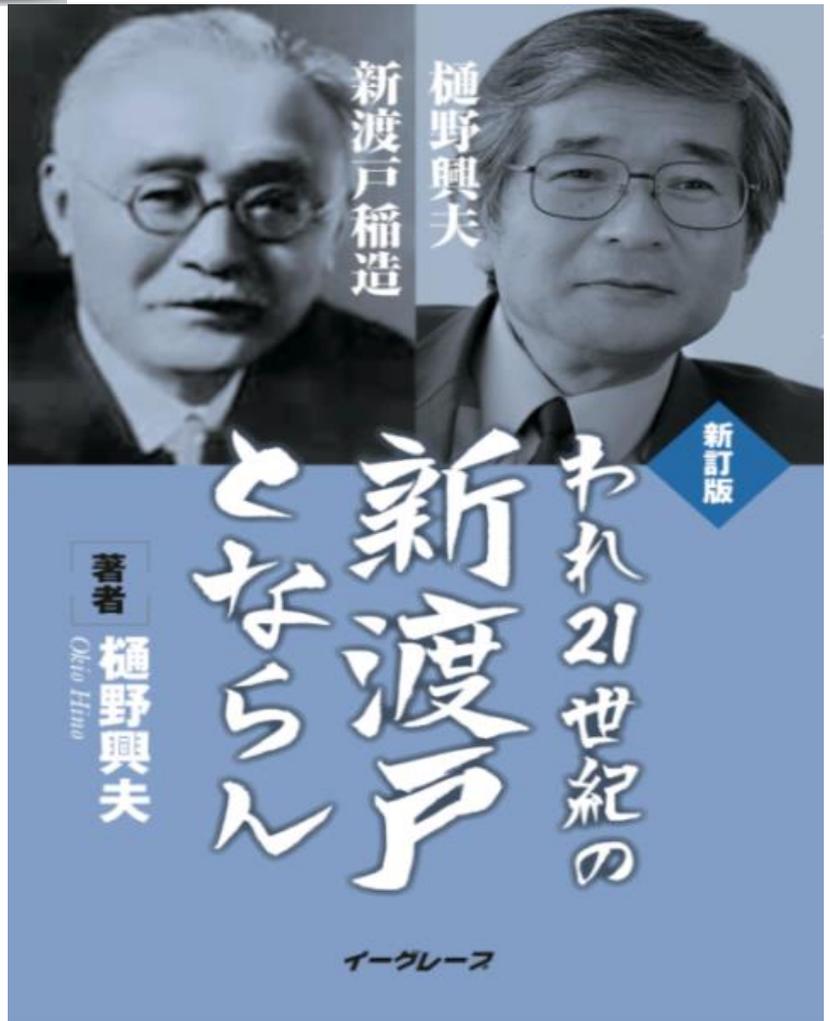


【新渡戸稲造記念センター】5周年 ～ すべての始まりは『人材』～

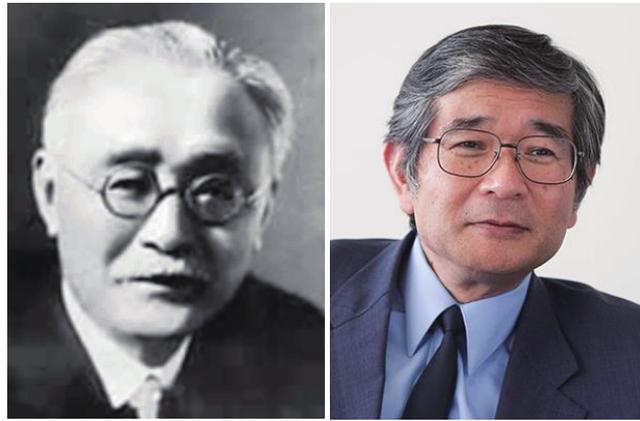
2024年2月15日【新渡戸稲造記念センター】から東京女子大学の理事会に向かった。大変有意義な貴重な時となった。日々勉強である。今年(2024年)は【新渡戸稲造記念センター】設立(2019年4月)5周年である。

【『新渡戸稲造記念センターの紹介』：『新渡戸稲造記念センター』は、東京医療利用組合（現・東京医療生活協同組合）の初代組合長（理事長）である新渡戸稲造(1862-1933)博士の志こころざしを日本の国内外へ広め、実践する拠点となります。『新渡戸稲造記念センター』のセンター長には、新渡戸稲造博士の専門家として本邦の第一人者で、新渡戸博士の志を継承して活躍されている樋野 興夫先生が就任されました。】

筆者は、【『新渡戸稲造記念センター長の挨拶』：2003年に初版『われ 21世紀の新渡戸とならん』（画像）、2018年に新訂版(画像)、2019年4月には 英語版『I Want to Be the 21st Century Inazo Nitobe』（画像）が発行されることになった。タイミング的には『新渡戸稲造記念センター長』就任記念ともなった。—— 私に強い印象を与えた言葉は、小学生時代の『ボーイズ・ビー・アンビシャス』（boys be ambitious）である。札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク（1826-1886）（画像）が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。クラーク精神が新渡戸稲造、内村鑑三（1861-1930）を生んだことも知らぬまま、ぽっと希望が灯るような思いであったものである。その後、19歳から新渡戸稲造・内村鑑三、南原繁（1889-1974）、矢内原忠雄（1893-1961）を静かに学んできた。【『教養ある人間とは、『自分のあらゆる行動に 普遍性の烙印を押すこと』であり、『自己の特殊性を放棄して 普遍的な原則に従って行為する人間』とのことである。——『生活環境や 言葉が違って 心が通えば友達であり、心が通じ合う人と 出会うことが 人間の一番の楽しみである。』】（新渡戸稲造）を体験する日々でもある。【すべての始まりは『人材』である。『はしるべき行程』と『見据える勇気』、そして世界の動向を見極めつつ、高らかに理念を語る『小国の大人物』出でよ！】ここに、『新渡戸稲造記念センター』の設立】の歴史的意義があろう！



**I Want to Be
the 21st Century NITOBÉ Inazō**



Okio Hino, M.D., Ph.D.

